

(エ) 駒沢通り

- 沿道を歩く歩行者も多く、景観に配慮した街路樹の維持管理や公共サインの適正な配置や統合化など、印象深い道路景観づくりが必要です。

(オ) 玉川通り

- 今後、首都高速道路3号線の高架の改修にあたり、良好な景観形成という視点から構造物の形態や色彩に配慮することが望めます。また、建設中の大橋ジャンクションについても、景観的な配慮をしていくことが必要です。
- 歩行者空間は特に、車道からの騒音、排気ガスなどの影響を防ぐために、植栽による緩衝帯を連続的に配置する工夫が必要です。

(カ) 魅力ある歩行者空間の保全

- 安全で安心して通行できる歩行空間の確保・充実を目指す「歩行者ネットワーク（暮らしのみちネットワーク）」の形成にあたっては、魅力ある景観形成も考える必要があります。
- 生活感ある路地空間、歴史的な雰囲気のある参道、区民に親しまれている緑道、さらに沿道の敷地も利用・活用して、豊かな空間構成を図っていくことが望めます。また、学校など公共公益事業の施設周辺には、安全面に配慮した潤いある歩行者空間の整備も全区的に展開していくことが望めます。

(キ) 水を意識した川沿いの歩行者空間整備

- 目黒川に沿った道路・通路については、水を意識させるデザインの採用や舗装の工夫などにより魅力的な歩行空間として整備することが望めます。

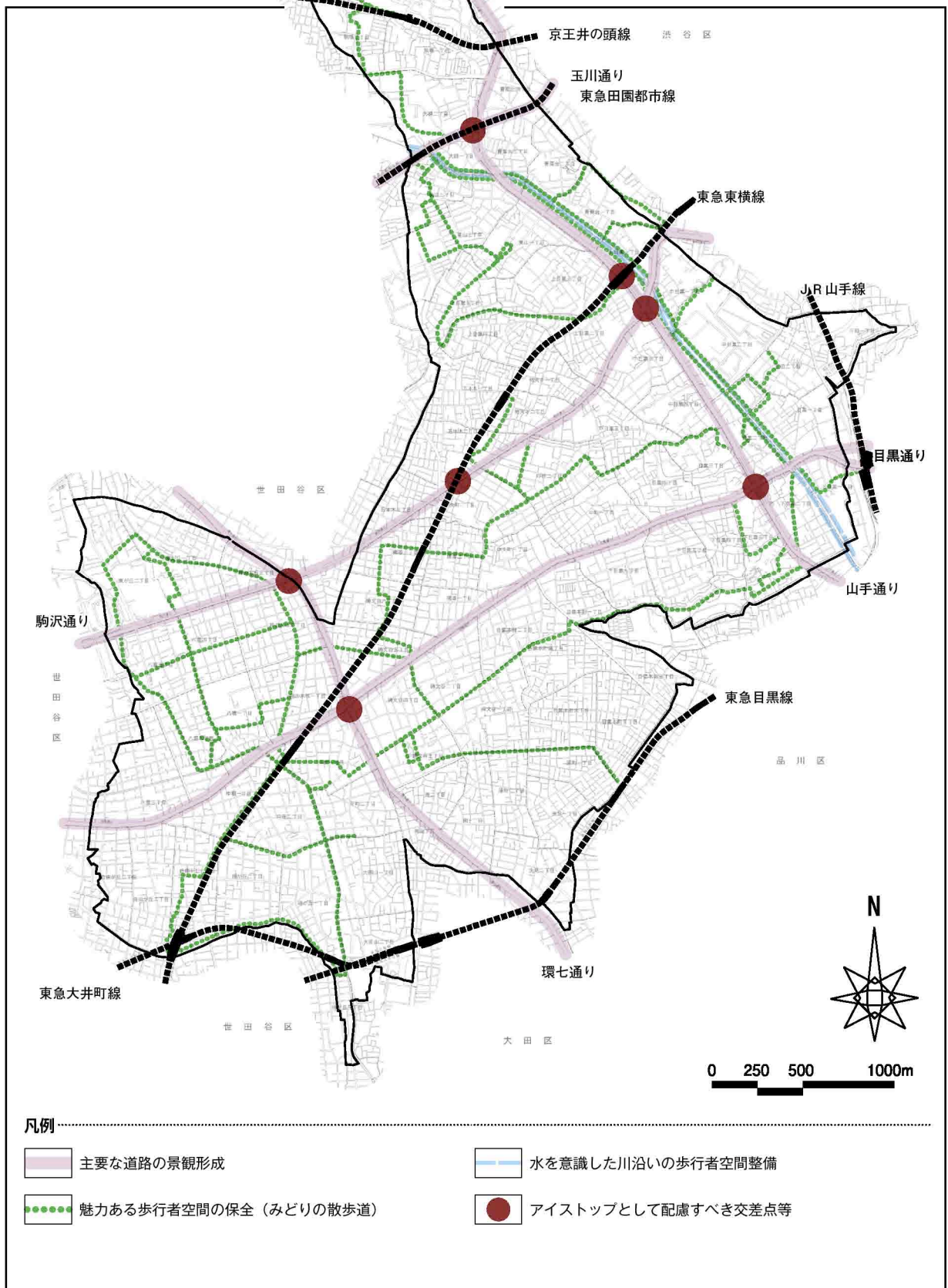
(ク) アイスストップ^{*}となる交差部の整備

- 幹線道路と鉄道の高架の交差部や幹線道路の立体交差部等は、アイスストップとなることから、良好な景観形成という視点から構造物の色彩などに配慮する必要があります。

(ケ) その他共通事項

- 無電柱化は、目黒通り、山手通り、玉川通りなどの幹線道路や選定した区道を中心に進められていますが、景観阻害要因を取り除き良好な道路景観を形成するため、今後も引き続き計画的な無電柱化を進めていく必要があります。
- 街路樹は、管理上の問題で、景観的な魅力が乏しい道路景観となっている箇所が見られます。こうした路線については、維持・管理方法について道路管理者と連携しながら、改善を図っていく必要があります。

図I-4 道路景観課題区



(3) 近隣空間

生活空間の中からとらえられる生活のまとまりや身近な景観要素についての特性、課題を明らかにしていきます。

ア. 特性

(ア) 近隣の商店街

- 各駅周辺の商店街は、生活必需品を集めた市場的なにぎわいがあります。道路沿いで売り買いされる生鮮食料品や日用雑貨品などの光景は、親しみやすさがあります。その反面、老朽化した店舗、看板などによる景観の質の低下も見受けられます。
- 各商店街とも自転車利用者が多いことから、放置自転車が随所に見受けられます。

(イ) 公共・公益事業施設

- 住区の中心施設である学校やコミュニティ施設のあり方と、それらをつなぐ歩行者空間の整備は、快適な生活空間をつくるうえでも、また景観形成上も重要なポイントとなります。
- 地域の交流の場である学校や住区センターには、公園と一体となった上目黒住区センター、地形を効果的に利用した烏森住区センター、学校敷地周囲の植え込み、コミュニティ道路の整備など、景観的な配慮がされている所も随所にあります。
- 街を歩いていて目にする公園のみどりや草花は、貴重な自然とのふれあいを提供してくれます。

(ウ) 駅周辺

- 駅前広場が整備されている駅は少なく、自由が丘駅、祐天寺駅では、駅前広場自体が狭く、周辺の商業ビルなどにより雑然とした雰囲気になっています。

(エ) 駐車場

- 住宅地の中で目につく景観要素に駐車場があげられます。駐車需要の増大や相続、建替えによって出現する駐車場に看板が設置されるなど、街並みの連続性を妨げています。



駅前の商業施設(自由が丘駅前)



街路樹のみどり(洗足駅前)

イ. 課題

(ア) 近隣の商店街

- 日常の買物や駅の利用で、身近に接することの多い近隣の商店街は、安心して快適に利用できる整備を検討する必要があります。
- 魅力ある商店街を形成するため、商店街の景観形成を図り、活性化を図る必要があります。

(イ) 公共・公益事業施設の修景や整備

- 日常的に利用され、人々の目にふれる機会の多い地域の公共・公益事業施設は、地域の景観イメージを高めるうえでも重要であり、景観に配慮した整備が望まれます。
- 学校は教育の中心施設であると同時に、潤いある景観づくりが必要となります。
- 個々の施設のデザインや敷地のあり方も重要ですが、景観につながりや変化を生むために、公園を地域の中で楽しく歩ける道でつなぎ、回遊できるようにネットワーク化することが必要となります。

(ウ) 駅周辺

- 駅周辺のように商業施設が集まり、人が交流し賑わう場は、来訪者の印象や地域のイメージを左右するので、景観整備上、重要です。
- そのため、駅前広場整備、自転車放置対策やゴミの散乱防止など、総合的な環境美化が必要となります。

(エ) 駐車場

- 住宅地の中で、街並みを分断する駐車場について、緑化したり敷地境界の修景を加えるなど、街並みに調和した整備を進めていく必要があります。

(オ) 街の道具の再検討

- 道路、公園を利用する際や日常の生活の中で、目にふれる公共サインや休憩施設、ストリートファニチュアなど、様々な街の道具について使いやすさ、美しさ、ユニバーサルデザインの視点からも検討してみる必要があります。

(カ) 住民の意見を反映させた景観づくり

- 住んでいる人が日頃意識している景観資源や愛着のある場所について、住民参加のもと景観整備を進める必要があります。

4. 街並みの変化

街並みの変化に着目して、特性、課題を明らかにします。

ア. 特性

(ア) 開発による急激な変化

- 大規模跡地などにおける個別の開発、大規模な建造物の整備は、周辺地域の景観に大きな影響を与える可能性があります。
- 住宅地の中では建築物のボリュームや高さの違いなどによって周辺の街並みになじまないところがみられます。

(イ) ゆるやかな街並みの変化

- 目黒本町などの木造住宅が密集している地域は、その整備・改善に長い時間を要するため、徐々に街が変化しています。

(ウ) 良好な街並みの保全

- 良好な住宅地は、重要な景観資源とも言えるため、今後も保全していく地域と位置づけられます。

(エ) 道路、鉄道等の改修

- 道路や鉄道等の都市基盤施設は新たに整備が必要とされるものもありますが、一定程度の水準に達しており、今後は、これらの施設の改修時期を迎えることになります。



大規模な土地利用の転換（区民キャンパス）



低層住宅地（八雲）

イ. 課題

(ア) 開発による急激な変化

- 開発に伴う街並み景観の変化においては、周囲の街並み景観を踏まえるとともにも周辺地域に与える影響を十分に予測し、良好な景観形成を誘導することが必要です。
- 人の目にふれやすい大規模構造物は、景観づくりの取り組みの対象として、波及効果が大きく景観施策のPRにもなるため積極的に取り組むことが必要です。

(イ) 良好な環境改善と併せた良好な景観形成

- 建て替えによる市街地のゆるやかな変化をとらえ、現状の生活環境を改善することと併せて、良好な景観をつくり出していくことが必要です。

(ウ) 住民の手によるより良い景観の形成

- 地区計画や街づくりのガイドラインが定められている地域については、住民の参加のもとに景観的な検討を十分に行い、景観のルールを定めていく必要があります。

(エ) 都市計画道路及び沿道建築物の積極的な景観配慮

- 現在事業が行われている都市計画道路や、第三次事業化計画路線において優先整備路線と位置づけられている都市計画道路は、事業主体など関係機関と連携し、無電柱化などの整備を進める必要があります。
- 沿道の建築物は、道路整備の機会を捉え、良好な街並み形成に向けた景観への配慮を誘導する必要があります。

(オ) 道路、鉄道等の改修

- 道路、鉄道等の改修などにあたって、景観的な視点を取り入れていく必要があります。